

佳作

「自分のため」が「だれかのため」 になること

福島県 郡山ザベリオ学園小学校四年 星 馨

夏休み、家族で群馬県のみなかみ町に行きました。夜は毎日、おんせんに入り、とても気持ちが良いかったです。体を洗い終わった後使ったおけやいすを片づけるために、置き場に持っていきました。ほかのおけやいすが少し、まがって置いてあったので、私は何となく、まっすぐにならべ直しました。その時、お母さんは何も言わなかったのですが、おんせんから部屋に戻ると

「かおちゃん、さっきおんせんで、どうしていすやおけをならべていたの？」

と急にお母さんに聞かれて、少しびっくりしました。「だって、がちゃがちゃになっていたら気持ちが悪くないじゃない。」

と私が答えると、お母さんはおどろいたような顔をして、

「へえ。後から使う人のためにやっていたわけじゃないんだ。」

と聞き返してきました。

「そりゃあ、そうかもしれないけど、でも、自分が気持ちが悪くないもん。」

と私が言うとう

「おけやいすを整理するのはだれのため？」

とお母さんがまた聞いてきたので、

「自分のためかなあ。」

と私は答えました。

「自分のためにしたことが、他のだれかのためになるなんて、すてきだね。」

とお母さんが言ったので、私はもっとおどろきました。自分のためにしたことがほかのだれかのためになってるなんて、考えたこともなかったからです。

自分のためにしていることが、だれかほかの人に役に立つということ。私は去年した「ヘアドネーション」のことを思い出しました。切ったかみの毛を、きふする活動です。病気でかみの毛がなくなってしまう子のためにきふされたかみの毛でかつらを作るのだそうです。私はすぐにかみの毛を切りたかったのですが、きふできる長さになるまで、カットす

るのをがまんすることにしました。三年生の夏休みに、ようやくかみを切ることができてとても軽くなり、さっぱりしました。ふっうにかみを切っていたら、ただのゴミになって捨てられてしまった私のかみの毛ですが、きふすることで、病気の子の役に立つことができました。かみをきふしてから一年がたって、私のかみはまたのびてきました。またきふをしようと考えています。

温泉のおけやいすも、ヘアドネーションも、自分のためにしたことが、ぐうぜん、ほかのだれかの役に立ちました。これからも、自分で無理をしないで、それがだれかの役に立つことがあれば、積極的にチャレンジしたいと思います。